

DATA FILE



六方晶系

名前	MORGANITE(モルガナイト)/モルガナイト
化学組成	$\text{Be}_3\text{Al}_2\text{Si}_6\text{O}_{18}$
色	ピンク色
光沢	ガラス光沢
蛍光	なし
条痕	白色
劈開	不明瞭
断口	貝殻状
硬度	7-8
比重	2.6-2.9

モルガナイト

MORGANITE

モルガナイトは緑柱石の一種。緑柱石グループの鉱物は、色によって名前が異なっており、緑色のものはエメラルド、水色のものはアクアマリンと呼ばれている。

モ

通常はピンク色だが、角度によっては無色に見える多色性を持つのが特徴。

他の緑柱石と違って、柱状ではなく、板状結晶で産することが多い。

「モルガナイト」という名前は、鉱物や宝石の収集家としても知られるアメリカの銀行家J・ピアポイント・モルガンに由来しており、彼はニューヨークの自然史博物館に、有名な鉱物や宝石のコレクションを数多く寄贈している。

微量に含まれているマンガンの影響により、透明感のあるピンク色であられる。

さまざまな形にカットニングされ、宝石やアクセサリとして幅広い人気がある。



緑柱石グループの一種

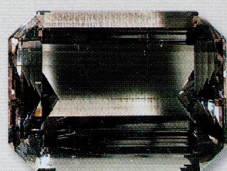
ケイ酸塩鉱物に分類される緑柱石グループの一種であるモルガナイトは、他の緑柱石より短くて平べったい結晶を持っているのが特徴で、一般的にはピンク色をしているが、角度によっては無色にも見える多色性の鉱物。花崗岩ペグマタイトや黒雲母片岩中に、鱗雲母や電気石と一緒に産出することが多いが、ごくたまに地下の熱水脈で見つかることもある。これは、マグマがたまるときに出る熱いガスとまわりの岩石が接触した時につくられる「気成作用」といわれ、この作用により形成された鉱物を「気成鉱物」と呼ぶ。

ブラジルのミナスジェライス州をはじめ、世界各地で採られているが、なかでもマダガスカル産のものは最高級品といわれており、ロシアのセントペテルスブルグ博物館には、ステップ・カット（アウトラインに沿って平行にファセットが配列されており、側面からはファセットが階段状に見える宝石のカット名）にされた、598.7カラットという世界最大のマダガスカル産モルガナイトが展示されている。



▲ペグマタイトにできたモルガナイトの結晶。イタリア産。

さまざまな形にカットिंगされたモルガナイト



▲長方形。



▶卵形。

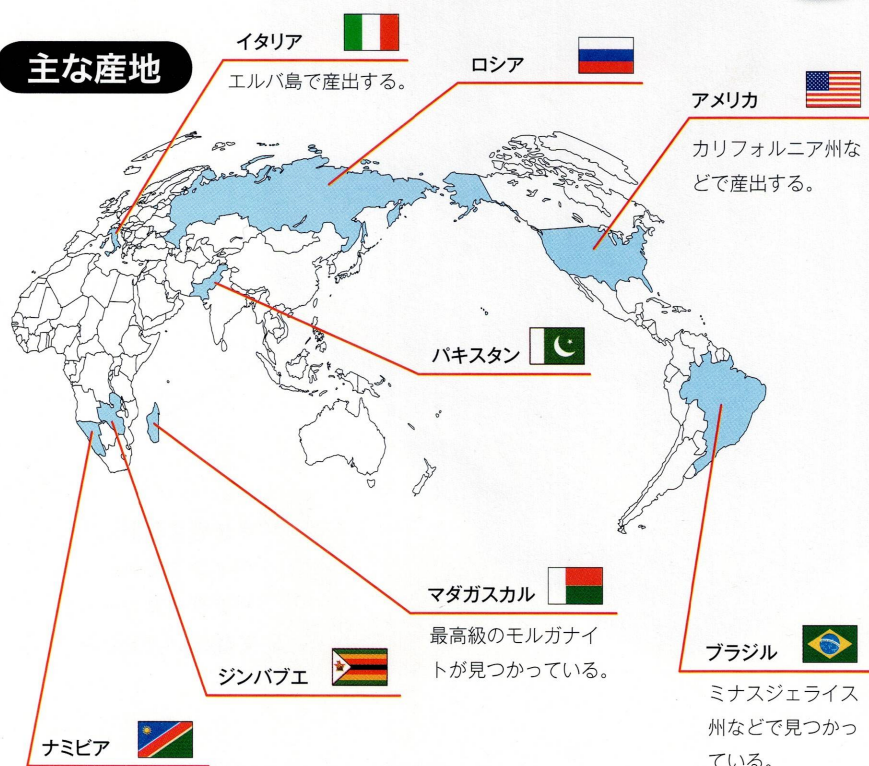


◀楕円形。



▲ドロップ形。

主な産地



▲直径9mmのモルガナイトの結晶。